

●『アーレンシンドローム：

光に鋭敏なために生きづらい子ども達』

著者： 熊谷恵子

発行：幻冬舎 / 2018年9月25日

価格：本体 1,404 円＋税

判型：A4 判, 178 頁・Kindle 版もあり

ISBN：4344917529



【内容紹介】

「文字が動き出して読みづらい」「LED 照明のもとでは眩しすぎて暮らせない」という子ども達への理解とそれに対する周囲の支援を求めている書である。このような光の過敏症ともいえるアーレンシンドロームは、生まれながらにして光の感受性が高いために起こっているものである。たとえば、パソコンのピクセルの構造まで見えてしまうような鋭敏な視知覚をもっている。現在、医学的な診断名もなく、症候群としてまとまりがあるかどうかはまだ不明なところがあるが、このような症状をもっておりカラーレンズやカラーフィルムで対応できる人は 6%以上いる。米国の学校心理士であった **Helen Irlen** が、この対処法としてカラーフィルムやカラーレンズにより緩和されることを 1983 年に発見した。

その後、この定量的な測定方法は確立しておらず、そちらの方の研究も待たれるところである。

このカラーレンズやカラーフィルムは、一人ひとり異なる光のスペクトルをカットしなければならぬために、**My Lens** を求めて、全国から、このカラーレンズを求めて筑波大学・心理発達教育相談室（東京キャンパス）を訪れているクライアントさんが多くいる。また、これは読むときの必需品であり、センター入試などの試験を行う際にもカラーフィルムやカラーレンズの使用について配慮がなされるべきである。

【出版社の書籍紹介ページ】

<https://www.gentosha-book.com/products/9784344917521/>

【著者紹介】

筑波大学人間系教授。